

平成28年度 第3回 大阪府立かわち野高等学校 学校協議会報告

日 時：平成29年2月27日（月）15時30分～17時00分

場 所：アクティブラーニングルーム

協議内容

授業アンケートについて

- ・ポイントにばらつきが少ないのはいいことである。
- ・学年別にデータを取り、比較して経年伸び率を検証することが望ましい。
- ・研究授業の効果はおおきい。授業を通して他の先生の話ができてコミュニケーションが広がることもある。研究協議なしでもいいから、保護者や教員間で自由に見学できる公開授業週間を設定したり、学校間の公開授業を考えるのもいいかもしれない。
- ・実技科目の得点が高いのは、実験実習結果と解答がきっちりつながって理屈原理と結果の一致が興味関心につながるからである。
- ・「読む・書く」の国語力を土台にしたプレゼンテーション力が必要とされる。
- ・英語検定、漢字検定、パソコン検定など在学中の資格取得が励みになっている。教科でさらに強く推し進めてほしい。
- ・主体的に学び、自ら学び、協同的に学ぶことが大切である。

自己評価について

- ・年々ポイントがあがっているが、ますますハードルが高くなる。
- ・「定着」を図るためには、まず「継続」から。
- ・自己評価◎は甘い。○くらいの感覚で取り組んでほしい。
- ・これが「かわち野」という特色がなく、インパクトが薄い。地域との連携が遅れており、地域とのコミュニケーション不足、教員通しのコミュニケーション不足が心配。
- ・広報活動では「ロコミ」の力が意外に大きく、PTA等とのコラボを模索すべきである。
- ・部活の加入率が低いのが気になる。部活が活性化すると学校に元気が出る。アルバイトとの関連で、優先順位が部活になるようにしなければならない。従来の形態にとらわれず、早朝だけとか昼休みだけとかの活動も考えるべきである。
- ・若手の取り組みは心強い。年次研修の活用や、ミドルリーダーの巻き込みを推し量るべきである。
- ・大学は近くで選び、ペーパー入試を嫌う傾向にある。
- ・ここをめざすという具体例を示し出口をはっきりさせることが広報の充実につながる。
- ・再編カリキュラムにおいて、専門学校、大学の出前授業を積極的に取り入れるべきである。